

監視委員会評価部会報告書

令和3年度第1四半期及び第2四半期
(環境放射線監視結果の概要)

II 監視結果の概要

II - 1 短期的変動調査結果

原子力施設の平常稼働時に放出される放射性物質の他，事故等により放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を**早期に把握**する

評価対象期間	[第196報] 令和3年4月～6月・[第197報] 令和3年7月～9月
調査内容	環境(事業所敷地外):空間ガンマ線量率,放射能(大気,農畜産物,海洋)の測定 事業所敷地内 :空間ガンマ線量率,放射能(大気)の測定,放出源(原子力施設の排気筒,排水溝):排気,排水に含まれる放射能の測定

II - 2 長期的変動調査結果

原子力施設**周辺環境**における放射線と放射性物質のレベル，蓄積傾向及び地域分布の状況などの**長期的変動の有無を把握**する

評価対象期間	[第197報] 令和3年4月～令和3年9月
調査内容	環境(事業所敷地外):空間ガンマ線量率,漁網表面吸収線量率, 放射能(大気,陸土,陸水,海洋など)の測定 事業所敷地内 :空間ガンマ線量の測定

II - 1 短期的変動調査結果

1 環境における測定結果

1 - 1 空間ガンマ線量率測定結果 (資料No.2 : P 3, 4, 10~22, 77, 78, 87~99)

- ・ 月平均値は、全98地点において、**平常の変動幅^(注2)の上限値 (100nGy/時)**を下回っていた。
- ・ 1時間の最大値は、いずれも降雨の影響により観測された
- ・ 令和2年度第3・第4四半期と同程度で推移

単位：nGy/時

	地区名	第1四半期 4～6月		第2四半期 7～9月		月平均値 (事故前) の平常の 変動幅	R2年度 第3・4四半期の 月平均値	1時間値の最大値	
		月平均値	1時間値 の最大値	月平均値	1時間値 の最大値			事故前 (H22年度)	事故後 (H23.3.15)
一般 環境	東海地区<35地点>	34～65	87 ^{注1}	34～64	90 ^{注1}	100 (上限値)	34～68	80	3,900
	大洗地区<15地点>	43～62	85 ^{注1}	42～61	89 ^{注1}		44～63	71	3,100
	比較対照地点<1地点>	52	68 ^{注1}	52	75 ^{注1}		53	72	1,500
	原電又は機構大洗 から10～30km圏内 <22地点>	31～54	81 ^{注1}	31～53	92 ^{注1}		32～55		
事業所 周辺監 視区域 境界	東海地区<14地点>	48～66	83 ^{注1}	48～65	91 ^{注1}		49～70	77	5,200
	大洗地区<11地点>	42～77	93 ^{注1}	42～77	100 ^{注1}		43～79	69	3,100

(注)：樹木等が多く存在している場所では、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が蓄積しているため、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある

(注1)：降雨の影響による

(注2)：平常の変動幅は、平常時におけるモニタリングによって得られたデータが種々の要因で変動するが、その変動の幅を用いて調査検討を要するデータを客観的に見出す。

1-1 空間ガンマ線量率測定結果

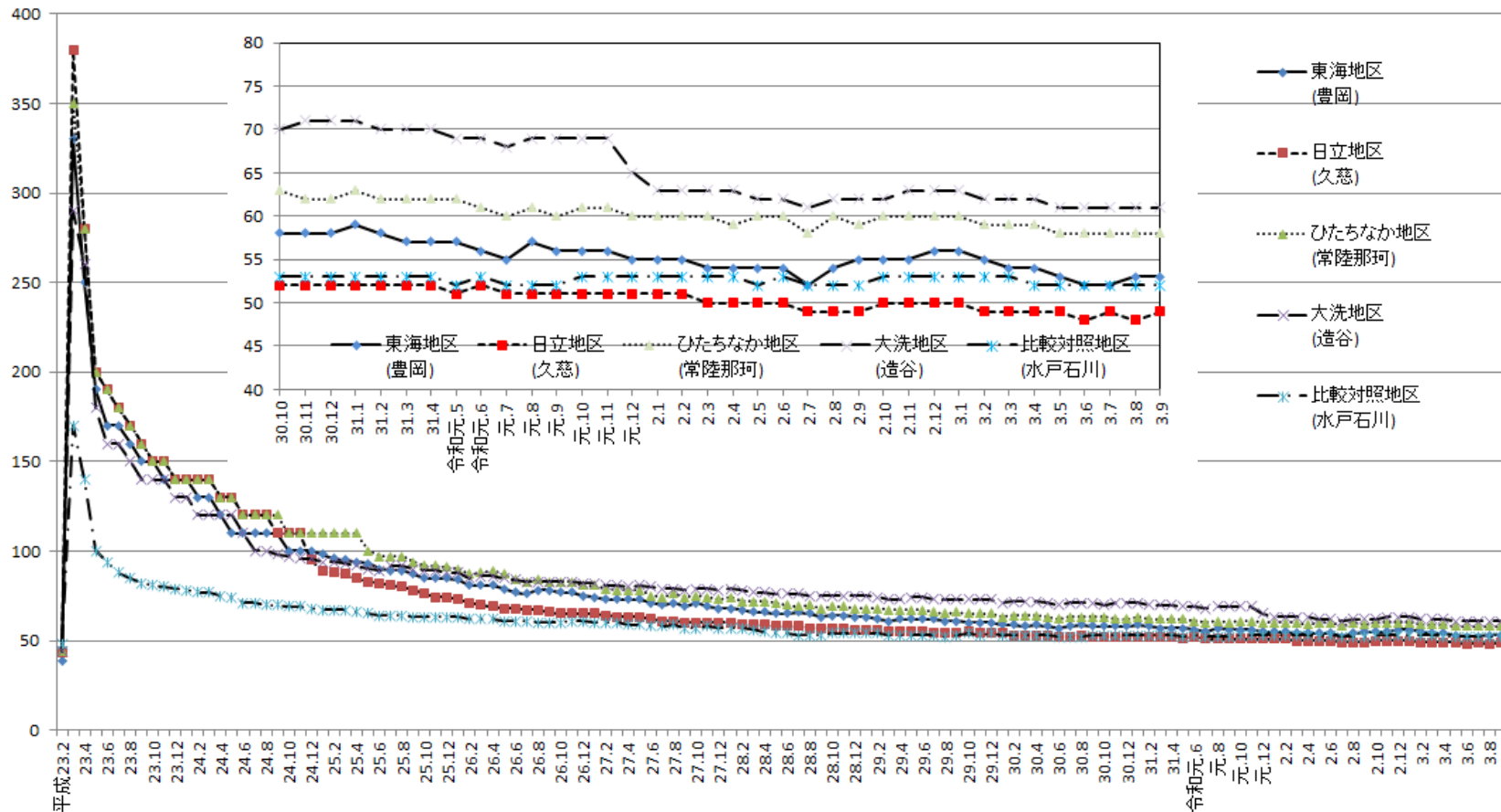
空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における 月平均値の経月変化

(福島第一原発事故前 (平成23年2月) から令和3年9月まで)

単位：nGy/時



モニタリングステーション



1-2 大気中の放射性核種分析結果 (資料No.2 : P 5,23~26,79,100~103)

- ・ 福島第一原発事故の影響により, 大気塵埃及び降下塵から¹³⁷Csが検出
- ・ 令和2年度第3・第4四半期と同程度で推移

項目	地点	核種	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	事故前の 最高値	令和2年度 第3・4四半期	事故後の最高値 (H23年3月)	単位
大気塵埃	東海村村松など 15地点	¹³⁷ Cs	不検出 (<0.1) ~0.27[5]	不検出 (<0.1) ~0.54[3]	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1) ~0.89[4]	3,800	mBq/m ³
降下塵	水戸市上国井町 など3地点	¹³⁷ Cs	不検出 (<0.4) ~1.5[3]	不検出 (<0.4) ~0.96[1]	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4) ~4.7[3]	27,000	Bq/m ²

(注)大気塵埃では ⁵⁴Mn,⁶⁰Co,⁹⁵Zr,⁹⁵Nb,¹⁰⁶Ru,¹⁴⁴Ce,Pu
降下塵では ⁵⁴Mn,⁶⁰Co,⁹⁵Zr,⁹⁵Nb,¹⁰⁶Ru,¹⁴⁴Ceも測定しているが不検出

※[]内は検出した地点数

1-3、4 牛乳(原乳)、海水中の放射性核種分析結果 (資料No.2 : P 5,27,79,104)

- ・ 牛乳(原乳)の¹³¹I, 海水の³Hはいずれも全地点において**不検出**

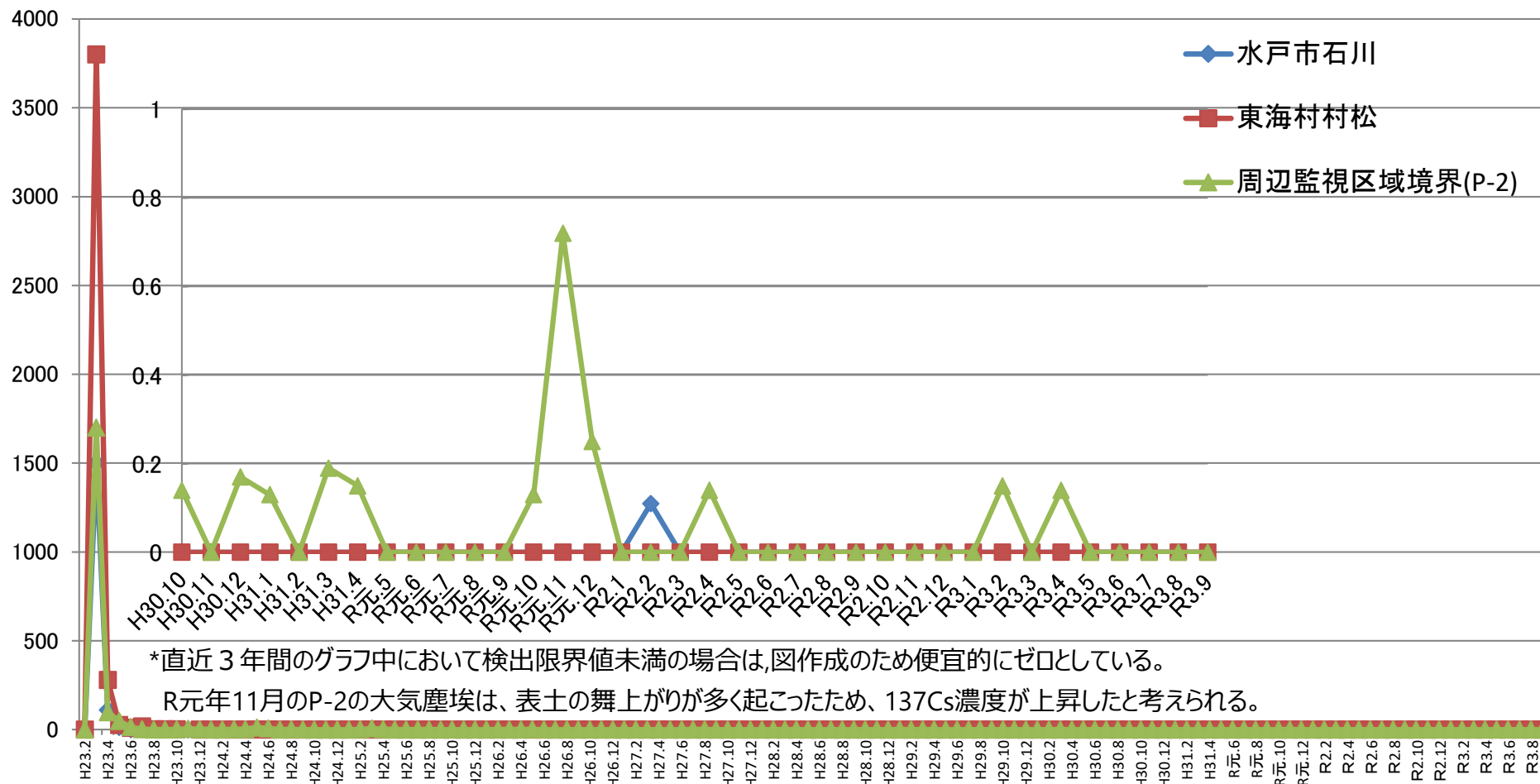
項目	地点	核種	第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月	単位
牛乳	那珂市豊喰など 5地点	¹³¹ I	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	Bq/L
海水	久慈沖など 12海域	³ H	不検出 (<20)	不検出 (<20)	Bq/L

1 - 2 大気中放射能測定結果

1 - 2 - 1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

大気塵埃中の¹³⁷Cs経月変化

(mBq/m³)

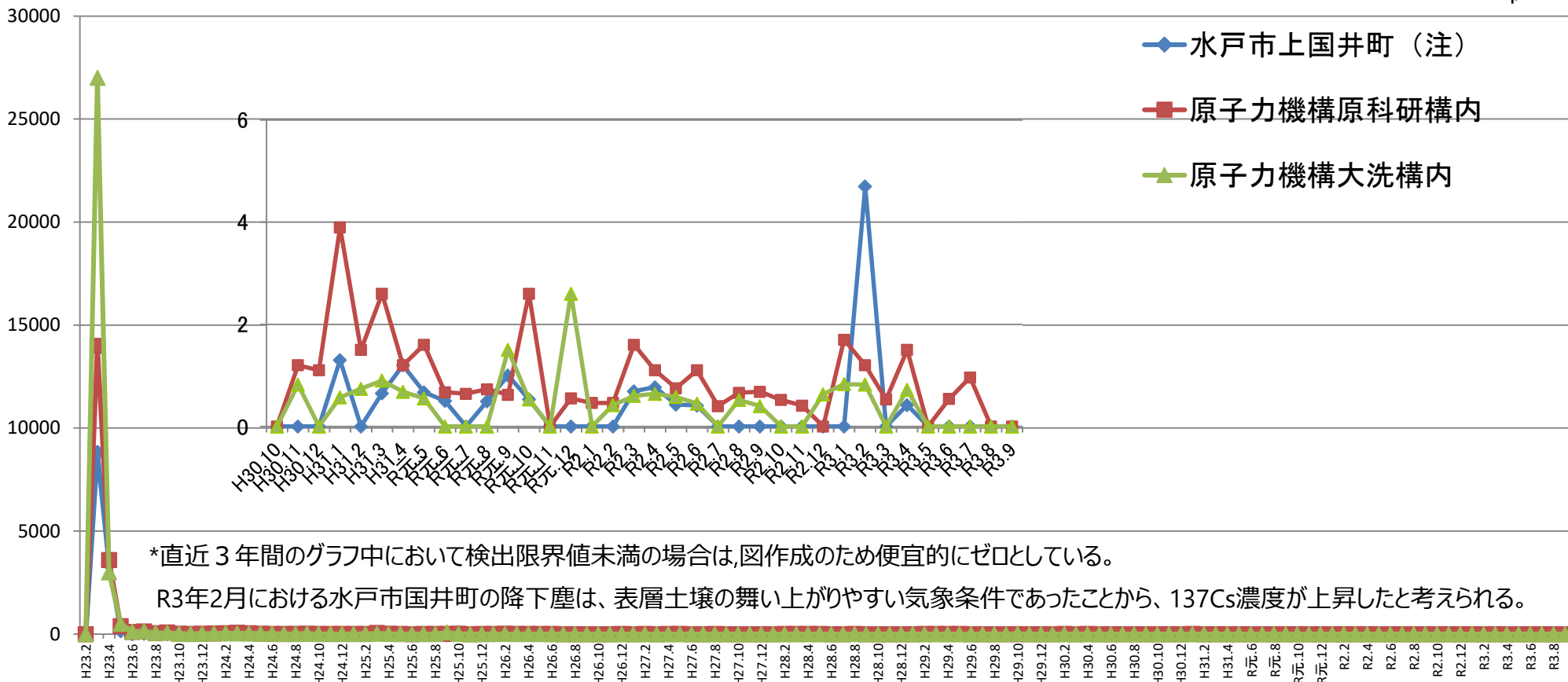


1 - 2 大気中放射能測定結果

1 - 2 - 2 降下塵埃中の放射性核種分析結果

降下塵中の¹³⁷Cs経月変化

(Bq/m²)



(注) 平成25年3月26日より水戸市愛宕町から水戸市上国井町に地点変更

2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量率測定結果 (資料No.2 : P5,29,79,105)

- ・月平均値は、福島第一原発事故前の**平常の変動幅の上限値 (100nGy/時)**を下回っていた
- ・令和2年度第3・第4四半期と同程度で推移

単位：nGy/時

地区名	第1四半期 4～6月		第2四半期 7～9月		月平均値 (事故前) の 平常の変動幅	R2年度 第3・4四半期 の月平均値	1時間値の最大値	
	月平均値	1時間値 の最大値	月平均値	1時間値 の最大値			事故前 (H22年度)	事故後 (H23.3.15)
東海地区<1地点> (サイクル工研)	42～43	57	42	61	100 (上限値)	43～44	52	4,000
大洗地区<1地点> (機構大洗)	48～49	69	47～48	84		50～51	63	2,900

2-2 大気塵埃中の放射性核種分析結果 (資料No.2 : P 6,30,80,106)

- ・原科研など3地点で測定
- ・福島第一原発事故の影響により、第3・第4四半期で1地点において¹³⁷Csが検出
- ・令和2年度第3・第4四半期と同程度で推移

単位：mBq/m³

検出 核種	分析値		事故前の 最大値	R2年度 第3・4四半期の 月平均値	事故後の最大値 (H23年3月)
	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月			
¹³⁷ Cs	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1) ～0.26[1]	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1) ～0.46[1]	2,400

(注)大気塵埃では⁵⁴Mn,⁶⁰Co,⁹⁵Zr,⁹⁵Nb,¹⁰⁶Ru,¹⁴⁴Ce,Puも測定しているが不検出

※[]内は検出した地点数

3 放出源における測定結果 3-1 排気中の放射能測定結果

3-1-1 放射性核種分析結果（主要放出核種） （資料No.2：P6,31~40,80,107~116）

- ・ 排気のあった排気筒で測定(第1四半期は34排気筒, 第2四半期は35排気筒)
- ・ 原科研（燃料試験施設）など第1四半期は4排気筒,第2四半期は4排気筒で検出

→ **過去と同じレベル又はそれ以下（管理目標値を下回るレベル）**

事業所名	施設名	核種名	3ヶ月平均濃度 (Bq/cm ³)		3ヶ月平均濃度の過去最大値 (Bq/cm ³)	令和2年度 第3・4四半期 3ヶ月平均濃度 (Bq/cm ³)	<参考> 管理目標値 (Bq/cm ³)
			第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月			
原子力機構 原科研	燃料試験施設	希ガス	6.0×10 ⁻³	不検出	1.4×10 ⁻²	不検出～3.9×10 ⁻³	7.8×10 ⁻²
	NSRR	希ガス	不検出	1.2×10 ⁻⁴	6.6×10 ⁻⁴	7.1×10 ⁻⁶ ～1.5×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻¹
	JRR-3	希ガス	2.6×10 ⁻⁴	7.7×10 ⁻⁴	4.1×10 ⁻³	不検出～1.0×10 ⁻⁴	6.0×10 ⁻²
原子力機構 サイクル工研	再処理施設・ 第二付属排気筒	¹⁴ C	不検出	4.1×10 ⁻⁵	8.2×10 ⁻⁵	不検出	2.3×10 ⁻³
積水メディカル	第4棟排気筒	³ H ¹⁴ C	1.9×10 ⁻⁵ 6.4×10 ⁻⁶	不検出 不検出	2.2×10 ⁻⁵ 2.3×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵ 4.9×10 ⁻⁶ ～6.6×10 ⁻⁶	7.4×10 ⁻⁴ 1.6×10 ⁻⁴
NDC	化学分析棟 (R棟)	¹³¹ I	1.9×10 ⁻⁹	不検出	2.1×10 ⁻⁸	1.4×10 ⁻⁹ ～2.7×10 ⁻⁹	7.4×10 ⁻⁸
日本核燃	照射後試験施設	希ガス	不検出	5.3×10 ⁻⁵	5.0×10 ⁻³	不検出	5.2×10 ⁻³

3-1 排気中の放射能測定結果

3-1-1' 放射性核種分析結果（その他検出された核種） （資料No.2 : P6,41,80,117）

- 原電東海発電所及び東海第二発電所で³Hを検出
→ **過去と同じレベル又はそれ以下(周辺監視区域境界外における法令値を下回るレベル)**

事業所名	施設名	核種名	月間平均濃度 (Bq/cm ³)		月間平均濃度の過去最大値 (Bq/cm ³)	<参考>法令値 (Bq/cm ³)	令和2年度第3・4四半期月間平均濃度 (Bq/cm ³)
			第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月			
原電	東海発電所	³ H注1	2.4×10 ⁻⁶ ～4.2×10 ⁻⁶	4.7×10 ⁻⁶ ～6.4×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻³	3.0×10 ⁻³	1.8×10 ⁻⁶ ～4.0×10 ⁻⁶
	東海第二発電所	³ H注2	1.4×10 ⁻⁷ ～1.8×10 ⁻⁷	1.9×10 ⁻⁸ ～2.7×10 ⁻⁷	1.4×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻³	4.7×10 ⁻⁷ ～1.4×10 ⁻⁶

(注1)：設備内に残留している炉内グラファイトの不純物 (⁶Li) の放射化によるもの

(注2)：設備内に残留している冷却材中の重水素の放射化によるもの

3-1-2, 2' 全ベータ放射能測定結果 （資料No.2 : P6,42~44,80,118~120）

- 全21排気筒で測定し、いずれも不検出

3-1-3 全アルファ放射能測定結果 （資料No.2 : P6,45,81,121）

- 核管センター新分析棟など3排気筒で測定し、いずれも不検出

3-2 排水中の放射能測定結果

3-2-1 放射性核種分析結果（主要放出核種） （資料No.2：P7,46~51,81,122~127）

- ・事業者が、排水のあった排水溝で測定（第1四半期は13排水溝，第2四半期は14排水溝）
- ・第1四半期は5排水溝，第2四半期は6排水溝で検出 → **全て法令値以下**

事業所名	排水溝名	主要核種名	3ヶ月平均濃度（Bq/cm ³ ）		法令値（Bq/cm ³ ）	令和2年度第3・4四半期3ヶ月平均濃度（Bq/cm ³ ）
			第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月		
原子力機構 原科研	第2排水溝	³ H ⁷ Be ²² Na ⁵⁴ Mn	2.1×10 ⁻¹ 1.2×10 ⁻⁴ 1.4×10 ⁻⁵ 1.7×10 ⁻⁵	1.0×10 ⁻¹ 1.2×10 ⁻⁴ 6.2×10 ⁻⁶ 1.2×10 ⁻⁵	6×10 注1 3×10 3×10 ⁻¹ 1	1.4×10 ⁻² ～2.4×10 ⁻² 不検出 不検出～4.1×10 ⁻⁶ 1.5×10 ⁻⁶ ～3.7×10 ⁻⁵
原子力機構 大洗	北地区	³ H	9.8×10 ⁻⁴	5.3×10 ⁻⁶	6×10 注1	5.6×10 ⁻⁴ ～1.1×10 ⁻³
原電	東海第二発電所	³ H	1.3×10 ⁻²	8.2×10 ⁻³	6×10 注1	不検出～6.8×10 ⁻⁴
JCO	廃水ポンド	U	不検出	7.4×10 ⁻⁴	2×10 ⁻²	不検出
NDC	排水貯槽	⁶⁰ Co ¹³⁷ Cs	2.9×10 ⁻⁵ 1.2×10 ⁻⁴	8.4×10 ⁻⁵ 1.4×10 ⁻⁴	2×10 ⁻¹ 9×10 ⁻²	3.3×10 ⁻⁵ ～6.8×10 ⁻⁴ 1.6×10 ⁻⁴ ～2.1×10 ⁻⁴
積水メディカル	調整槽	³ H ¹⁴ C	1.6 1.0	2.4 8.4×10 ⁻¹	2×10 注2 2	1.1～2.0 9.7×10 ⁻¹ ～1.0

（注1）：水としての法令値 （注2）：有機物としての法令値

3-2 排水中の放射能測定結果

3-2-1' 放射性核種分析結果（主要放出核種） （資料No.2 : P7,52~55,81,128~131）

- ・県が、排水のあった排水溝で測定（第1四半期は12排水溝，第2四半期は11排水溝）
- ・第1四半期は9排水溝，第2四半期は8排水溝で検出 → **全て法令値以下**

排水溝名	主要核種名	分析結果 (Bq/cm ³)		法令値 (Bq/cm ³)	令和2年度 第3・4四半期 分析結果 (Bq/cm ³)
		第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月		
原子力機構原科研 第2排水溝	³ H	5.7×10 ⁻⁴ ~ 1.9×10 ⁻³	7.3×10 ⁻⁴ ~ 3.3×10 ⁻¹	6×10 ^{注1}	不検出 ~ 2.2×10 ⁻¹
原子力機構サイクル工研 第2排水溝	U	6.5×10 ⁻⁶	-	2×10 ⁻²	8.3×10 ⁻⁶ ~ 1.2×10 ⁻⁵
原子力機構大洗 北地区	³ H ¹³⁷ Cs	4.5×10 ⁻⁴ ~ 8.3×10 ⁻⁴ 不検出	不検出 ~ 2.3×10 ⁻³ 不検出 ~ 5.2×10 ⁻⁵	6×10 ^{注1} 9×10 ⁻²	不検出 ~ 3.1×10 ⁻³ 不検出
原電東海第二	³ H	不検出 ~ 7.7×10 ⁻⁴	不検出 ~ 4.8×10 ⁻⁴	6×10 ^{注1}	不検出 ~ 4.6×10 ⁻⁴
JCO	U	5.0×10 ⁻⁵ ~ 6.2×10 ⁻⁵	5.2×10 ⁻⁵ ~ 6.9×10 ⁻⁵	2×10 ⁻²	4.0×10 ⁻⁵ ~ 6.9×10 ⁻⁵
三菱原燃	U	7.8×10 ⁻⁴ ~ 1.4×10 ⁻³	5.6×10 ⁻⁴ ~ 1.1×10 ⁻³	2×10 ⁻²	3.1×10 ⁻⁴ ~ 1.7×10 ⁻³
原燃工	U	9.6×10 ⁻⁶ ~ 1.2×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁶ ~ 1.6×10 ⁻⁵	2×10 ⁻²	1.5×10 ⁻⁵ ~ 2.8×10 ⁻⁵
NDC	⁶⁰ Co ¹³⁷ Cs	7.8×10 ⁻⁵ ~ 1.3×10 ⁻⁴ 3.3×10 ⁻⁴ ~ 3.9×10 ⁻⁴	不検出 ~ 7.4×10 ⁻⁵ 1.2×10 ⁻⁴ ~ 2.1×10 ⁻⁴	2×10 ⁻¹ 9×10 ⁻²	不検出 ~ 1.0×10 ⁻⁴ 1.1×10 ⁻⁴ ~ 9.2×10 ⁻⁴
積水メディカル	³ H ¹⁴ C	3.5×10 ⁻¹ ~ 3.1 1.6×10 ⁻¹ ~ 9.1×10 ⁻¹	1.0×10 ⁻¹ ~ 3.4 2.2×10 ⁻² ~ 8.0×10 ⁻¹	2×10 ^{注2} 2	4.7×10 ⁻¹ ~ 1.9 3.7×10 ⁻¹ ~ 6.8×10 ⁻¹

(注1)：水としての法令値 (注2)：有機物としての法令値

3-2 排水中の放射能測定結果

3-2-1 放射性核種分析結果（その他検出された核種） （資料No.2：P7,56,81,132）

- 原子力事業者が第1四半期は13排水溝，第2四半期は14排水溝で測定し，主要放出核種以外の核種について，第1四半期は2排水溝，第2四半期は3排水溝で検出→**全て法令値以下**

事業所名	排水溝名	核種名	分析結果 (Bq/cm ³)		法令値 (Bq/cm ³)	令和2年度 第3・4四半期 月平均濃度 (Bq/cm ³)
			第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月		
原子力機構 原科研	第1排水溝	⁹⁰ Sr ^{注1} ¹³⁷ Cs ^{注1注2} ²³² Th ^{注3} ²³⁸ U ^{注2}	不検出 8.0×10 ⁻⁷ 1.8×10 ⁻⁷ 不検出	1.0×10 ⁻⁸ 3.1×10 ⁻⁷ ～3.6×10 ⁻⁶ 1.1×10 ⁻⁷ 1.2×10 ⁻⁸	3×10 ⁻² 9×10 ⁻² 4×10 ⁻³ 2×10 ⁻²	不検出 不検出～3.7×10 ⁻⁶ 不検出～2.1×10 ⁻⁷ 不検出～1.1×10 ⁻⁷
	第2排水溝	⁵¹ Cr ^{注4} ⁹⁰ Sr ^{注5注6}	不検出 2.6×10 ⁻⁸	6.7×10 ⁻⁶ 3.6×10 ⁻⁹	2×10 ⁰ 3×10 ⁻²	不検出 2.4×10 ⁻⁸ ～9.3×10 ⁻⁸
	第3排水溝	³ H ^{注7}	不検出	3.3×10 ⁻¹ ～3.5×10 ⁻¹	6×10 ^{注8}	不検出～1.0×10 ⁻¹

(注1)：環境シミュレーション試験棟の排水系統に残留しているものの影響

(注2)：東京大学の廃止措置に伴う金属ウランの切断作業によるものの影響

(注3)：第4研究棟の排水系統に残留しているものの影響

(注4)：JRR-3の構造材の一部が放射化したことによるものの影響

(注5)：放射性廃棄物処理施設の蒸発処理によるものの影響

(注6)：放射性廃棄物処理施設における放射性廃棄物の詰替え作業によるものの影響

(注7)：核融合炉物理中性子源施設の排水系統に残留しているものの影響

(注8)：水としての法令値

3-2 排水中の放射能測定結果

3-2-2、2' 全ベータ放射能測定結果 (資料No.2 : P7,58~60,82,134~136)

- ・第1四半期、第2四半期とも11排水溝で測定
- ・第1四半期は9排水溝、第2四半期は8排水溝で検出 → **全て監視委員会が定めた判断基準を下回った**

排水溝	測定濃度 (Bq/cm ³)						令和2年度第3・4四半期 分析結果 (Bq/cm ³)		
	第1四半期 4~6月			第2四半期 7~9月					
測定者	施設者		県	施設者		県	施設者		県
評価対象	月最高濃度	月平均濃度	測定毎濃度	月最高濃度	月平均濃度	測定毎濃度	月最高濃度	月平均濃度	測定毎濃度
原子力機構 原科研 (第1)	不検出	不検出	不検出~ 2.3×10 ⁻⁴	不検出	不検出	不検出~ 2.0×10 ⁻⁴	不検出~ 2.4×10 ⁻⁴	不検出	不検出
原子力機構 原科研 (第2)	不検出	不検出	不検出~ 2.7×10 ⁻⁴	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出~ 2.5×10 ⁻⁴
原子力機構 サイクル工研 (第1)	不検出	不検出	3.4×10 ⁻⁴ ~ 4.6×10 ⁻⁴	不検出	不検出	2.4×10 ⁻⁴ ~ 4.7×10 ⁻⁴	不検出~ 3.2×10 ⁻⁶	不検出~ 2.9×10 ⁻⁶	2.9×10 ⁻⁴ ~ 4.9×10 ⁻⁴
機構大洗	3.0×10 ⁻⁴	不検出~ 2.5×10 ⁻⁴	不検出~ 3.0×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	不検出	不検出~ 3.0×10 ⁻⁴	不検出	不検出	不検出~ 3.0×10 ⁻⁴
三菱原燃	—	—	5.3×10 ⁻⁴ ~ 1.0×10 ⁻³	—	—	2.9×10 ⁻⁴ ~ 1.2×10 ⁻³	—	—	3.9×10 ⁻⁴ ~ 1.0×10 ⁻³
原燃工	—	—	3.5×10 ⁻⁴ ~ 5.7×10 ⁻⁴	—	—	2.8×10 ⁻⁴ ~ 7.0×10 ⁻⁴	—	—	3.2×10 ⁻⁴ ~ 6.2×10 ⁻⁴
JCO	—	—	不検出~ 3.1×10 ⁻⁴	—	—	2.0×10 ⁻⁴ ~ 3.5×10 ⁻⁴	—	—	不検出~ 4.6×10 ⁻⁴
NDC	—	—	6.9×10 ⁻⁴ ~ 7.0×10 ⁻⁴	—	—	2.2×10 ⁻⁴ ~ 6.7×10 ⁻⁴	—	—	2.0×10 ⁻⁴ ~ 1.5×10 ⁻³
積水メディカル	不検出	不検出	不検出~ 2.0×10 ⁻³	不検出	不検出	不検出~ 1.9×10 ⁻³	不検出	不検出	不検出~ 1.2×10 ⁻³
判断基準 (Bq/cm ³)	2×10 ⁻²	4×10 ⁻³	2×10 ⁻²	2×10 ⁻²	4×10 ⁻³	2×10 ⁻²	2×10 ⁻²	4×10 ⁻³	2×10 ⁻²

3-2 排水中の放射能測定結果

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果 (資料No.2 : P8,61~64,82,137~140)

- ・ サイクル工研が, ^3H など14核種について分析し, ^3H を検出
- ・ 県が, ^3H など9核種について測定し, ^3H , ^{137}Cs , Puを検出 → **全て法令値以下**

測定者	核種名	評価対象	分析結果		法令値	令和2年度 第3・4四半期 分析結果
			第1四半期4~6月	第2四半期7~9月		
原子力機構 サイクル工研	^3H	3ヶ月放出量 (MBq)	8.1×10^3	1.5×10^4	4.7×10^8	$6.0 \times 10^3 \sim 1.3 \times 10^4$
県	^3H	最大放出濃度 (Bq/cm ³)	9.2	11	2.5×10^4	1.4×10
	^{137}Cs		6.5×10^{-4}	3.7×10^{-4}	7.8×10^{-1}	6.7×10^{-4}
	Pu		2.6×10^{-5}	2.9×10^{-5}	3.0×10^{-2}	9.0×10^{-5}

3-2-4, 4' 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果 (資料No.2 : P8,66,82,142)

- ・ サイクル工研測定分, 県測定分とも不検出

3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果 (資料No.2 : P8,67,82,143)

- ・ 原科研(第2), サイクル工研(再処理施設), 機構大洗(北地区), 原電(東海第二)の4排水溝で測定
- ・ 福島第一原子力発電所事故の影響により、第1四半期は1排水溝, 第2四半期は2排水溝で降雨時に検出

Ⅱ - 2 長期的変動調査結果 1 環境における測定結果

1 - 1 空間ガンマ線量率測定結果 1 - 1 - 1 サーベイ結果 (資料No.2 : P83,145~149)

- ・福島第一原発事故で放出された放射性物質の影響により、**全56地点で事故前の測定値 (20~64nGy/時) を上回った**

単位：nGy/時

地区名	地点数	令和3年度上半期の測定値	事故前の測定値 (H22年度)	令和2年度下半期の測定値	事故後の最高値※ (H24.4~)
東海地区	36	30~67	20~47	32~70	370
大洗地区	18	35~87	26~64	38~90	180
比較対象地区	2	49~63	34~40	53~59	140

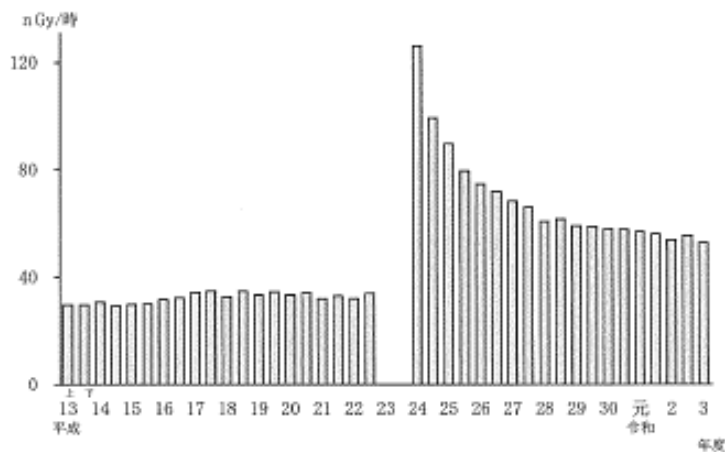


(注) 樹木等が多く存在している場所では、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質が蓄積しているため、サーベイ (空間ガンマ線量率) が高くなる傾向にある

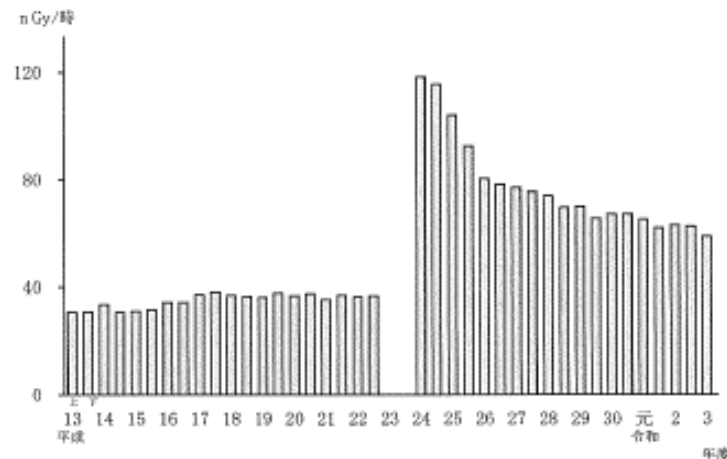
※ 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果はない

- ・サーベイ (空間ガンマ線量率) 経年変化

【東海地区の平均値】



【大洗地区の平均値】



1 - 1 - 2 積算線量測定結果 (資料No.2 : P83,150~160)

- 福島第一原発事故で放出された放射性物質の影響により、**93地点中76地点で平常の変動幅の上限（地点ごとに設定、0.12~0.26mGy/6ヶ月）を上回った**



積算線量測定

(注)樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある

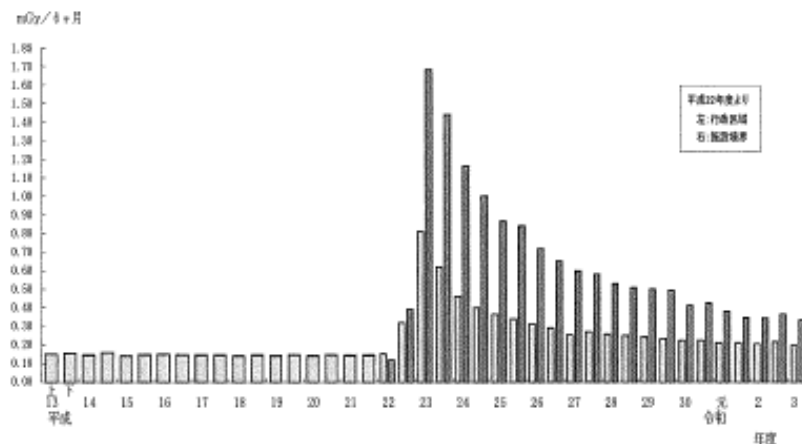
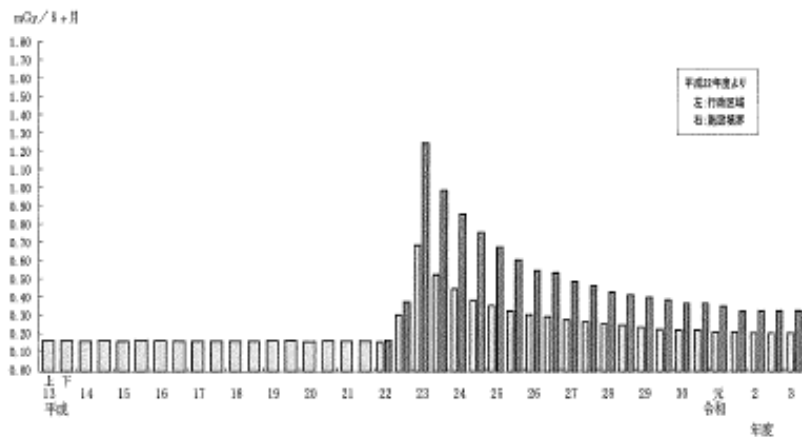
地区名		地点数		令和3年度 上半期の測定値	平常の変動幅	令和2年度 下半期の測定値	事故後の 最高値
東海地区	行政区域	67	47	0.15~0.29[36]	0.12~0.26	0.16~0.31[40]	1.4
	施設境界		20	0.14~0.70[16]	0.15~0.25	0.14~0.73[17]	3.4
大洗地区	行政区域	23	15	0.16~0.29[13]	0.13~0.22	0.16~0.31[13]	1.8
	施設境界		8	0.22~0.74[8]	0.14~0.18	0.23~0.78[8]	3.4
比較対象地区	行政区域	3		0.18~0.23[3]	0.15~0.20	0.18~0.22[3]	0.67

※[]内は平常の変動幅の上限を上回った地点数 単位 : mGy/6ヶ月

積算線量経年変化

【東海地区の平均値】

【大洗地区の平均値】



1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果 (資料No.2 : P84,161)

- 東海沖において曳船，測定し，ベータ線，ガンマ線は不検出

1-3, 4 環境（大気，陸土）中の放射能測定結果 (資料No.2 : P84,163)

- 福島第一原発事故の影響により¹³⁴Cs, ¹³⁷Csが検出

項目・地点		検出核種	令和3年度 上半期の測定値	事故前の最高値	令和2年度 下半期の測定値	事故後の 最高値 (注)	単位
降下塵	水戸市上国井町など 3地点	¹³⁷ Cs	不検出 (<0.4) ~1.5[3]	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4) ~4.7[3]	27,000	Bq/m ²
土壌	水戸市見川など 8地点	¹³⁴ Cs	2.4~25[8]	不検出 (<1)	3.1~31[8]	860	Bq/kg・乾
		¹³⁷ Cs	66~640[8]	85	69~660[8]	1,500	
河底土	東海村新川河口 1地点	¹³⁴ Cs	2.0[1]	不検出 (<1)	1.8[1]	120	Bq/kg・乾
		¹³⁷ Cs	45[1]	1.5	39[1]	140	
海岸砂	大洗町大貫など 3地点	¹³⁷ Cs	1.1~2.0[3]	不検出 (<1)	1.1~1.5[3]	53	Bq/kg・乾

(注)・事故後の最高値は，平成23年度の分析値

※[]内は検出された地点数

・福島第一原発事故により，特別調査を実施した土壌は，平成23年度の分析結果（最高値）がないため，平成24年度以降の最高値

・降下塵では⁵⁴Mn,⁶⁰Co,⁹⁵Zr,⁹⁵Nb,¹⁰⁶Ru,¹⁴⁴Ceを，土壌・河底土・海岸砂では⁵⁴Mn,⁶⁰Co,¹⁰⁶Ru,¹⁴⁴Ceも測定しているが不検出

1 - 5、6、7 環境（陸水、海洋等）中の放射能測定結果（資料No.2：P84,85,164~169）

- ・ 福島第一原発事故の影響により¹³⁷Csが検出
- ・ 海底土からPuが検出されたが、過去のレベルと同程度だった。

項目・地点		検出核種	令和3年度 上半期の測定値	事故前の最高値	令和2年度 下半期の測定値	事故後の 最高値(注)	単位
河川水 湖沼水	那珂川下流など 7地点	¹³⁷ Cs	不検出 (<0.004) ~0.016[3]	不検出 (<0.004)	不検出 (<0.004) ~0.012[4]	0.49	Bq/L
飲料水	水戸市上国井町 など10地点	-	不検出 (<0.004)	不検出 (<0.004)	不検出 (<0.004)	0.019	Bq/L
海水	久慈沖など 1 2 海域	-	不検出 (<0.004)	0.0048	不検出 (<0.004) ~0.0048[4]	0.046	Bq/L
海底土	久慈沖など 1 2 海域 (Puは9 海域)	-	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4) ~0.70[3]	110	Bq /kg・乾
		¹³⁷ Cs	2.0~9.9[12]	4.7	1.3~14[12]	530	
		Pu	0.26~0.74[9]	1.8	0.24~1.3[9]	1.3	
排水口 近辺土砂	機構大洗排水口 など2 地点	-	不検出 (<1)	不検出 (<1)	不検出 (<1)	34	Bq /kg・乾

(注) ・事故後の最高値は、平成23年度の分析値 ※[]内は検出した地点数

- ・海水については、事故後に県内全域の特別調査を実施しており、平成23年度における同地点の分析結果がないため、平成24年度以降の最高値
- ・河川水・湖沼水では³H, ⁵⁴Mn, ⁶⁰Co, ¹⁰⁶Ru, ¹⁴⁴Ceも、飲料水では⁵⁴Mn, ⁶⁰Co, ¹⁰⁶Ru, ¹³⁷Cs, ¹⁴⁴Ce, Uを、海水では⁵⁴Mn, ⁶⁰Co, ⁹⁰Sr, ⁹⁵Zr, ⁹⁵Nb, ¹⁰⁶Ru, ¹⁴⁴Ceも、海底土では²²Na, ⁵⁴Mn, ⁵⁸Co, ⁶⁰Co, ⁹⁰Sr, ⁹⁵Zr, ⁹⁵Nb, ¹⁰⁶Ru, ¹⁴⁴Ce, ¹⁵²Eu, ¹⁵⁴Euも、排水口近辺土砂では⁶⁰Co, ¹³⁷Cs, Uを測定しているが、不検出